

岐阜県原子力防災訓練

11月29日(日)、福井県内の原子力発電所で地震に起因する事故が発生し、放射性物質が揖斐川町へ流入するという想定で防災訓練が行われました。

約700人が参加したこの防災訓練では、揖斐川町川上地区(旧坂内村)の住民がバスで揖斐川健康広場に避難し、自衛隊のヘリコプターによる体が不自由な避難行動要支援者を搬送する訓練も実施されました。

健康広場に避難した後には、避難時に汚染が確認された車両に乗ってきた人に対して、放射線量測定器による検査を実施し、汚染が確認された人に簡易除染をするなど、手順や連携を確認しました。



▲放射線量測定器で検査を受ける参加者

ひとり暮らし老人宅訪問調査

11月10日(火)から13日(金)にかけて、秋の全国火災予防運動に合わせて、一人暮らし老人宅訪問調査が行われました。

この活動は、揖斐郡消防組合、女性防火クラブ、女性消防団、揖斐警察署が連携して、一人暮らしの老人宅を訪ねて、防火診断などを行うもので、防火意識の啓発を目的としています。

キッチンや仏壇など火を使う場所を確認しながら、危険な箇所の改善・アドバイスなどを行いました。

また、この活動に合わせて町内全域では防火宣伝が行われ、防火意識を高める呼びかけが行われました。火災が起きやすい時期ですので防火を意識して生活しましょう。



▲住民の方へ防火の呼びかけ

揖斐高校模擬選挙

11月5日(木)、公職選挙法の改正で選挙権が18歳以上に引き下げられることを受けて、揖斐高校で模擬選挙が行われました。

模擬選挙では、実際の選挙で使用される投票箱などを準備して、本番さながらの雰囲気の中で投票がおこなわれました。

昨年12月の衆議院議員選挙時に存在していた9つの政党・諸派で比例代表選挙を実施しました。

投票は、2年生・3年生の生徒272人が行い、管理者・立会人の監視の下、受付や開票も生徒たちが行いました。

投票結果は無効票・白票ともに0で、来年夏の参議院選挙に向けてもつと知識をつけて望みたいと意欲的な感想が挙げられました。



▲投票を行う生徒たち

小島小学校で人権創作劇

12月4日(金)、小島小学校で人権擁護委員による人権創作劇「だいじょうぶだじょうぶ」が披露されました。

この物語は、祖父と孫の交流を通じて、思いやりや助け合うことの大切さを伝えるものです。

劇を見た児童らは、「わたしも困っている人を見かけたら助けたい」、「自分でできることをしたい」と感想を述べ、思いやりの心を育んでいました。

また、法務省の人権イメージキャラクター「人KENまもる君・あゆみちゃん」も登場し、子どもたちと触れ合いながら、思いやりの大切さを呼びかけました。

人権擁護委員協議会では、毎年西濃地区の学校で、人権擁護の啓発活動として劇を上演しています。



▲劇を熱心に見学する子どもたち

城台山公園と揖斐川の町並みウォーキング

11月22日(日)、秋の城台山公園と揖斐川の町並みウォーキングが行われ、約350人が参加しました。

この催しは、町の自然や歴史スポット、町並みを巡り、揖斐川町の魅力を再発見してもらうことを目的として行われています。

揖斐川町役場をスタートし、ウォーキングウェアやリュックなどに身を包んだ参加者たちは、全長約7キロメートル、所要時間2時間30分のコースを楽しみました。

この日はさわやかな秋晴れで、深まった紅葉や、コースに点在するお寺などの風景を楽しみながら歩きました。

コース上には、染物体験や豚汁・甘酒のサービスもあり、参加者たちは秋の揖斐川を満喫していました。



▲揖斐城址から眺める揖斐の町並み

第1回いびがわ産業フェスティバル

11月14日(土)から15日(日)、揖斐川町地域交流センターから揖斐総合庁舎の駐車場にかけて、揖斐川町、いび川農業協同組合、揖斐川町商工会、揖斐郡森林組合の4機関共同で第1回いびがわ産業フェスティバルを開催しました。

今回が初となるこのイベントでは、揖斐川町の特産品販売、町内の飲食店など数多く出店されました。

また、全国のうまいもんとして各地の駅弁が販売されました。

会場内ではクラウン「TONTO」によるパフォーマンスなどが行われたほか、煎茶・深蒸し・かぶせ茶・ほうじ茶・紅茶の5種類を正しく当てる聞き茶クイズでは、子どもたちも参加し、見事の中させました。

また、販売ブースでは揖斐高校のビジネスコースの生徒たちが揖斐高校のいび茶んクッキーや、事前に講習を受けたフェアトレードで仕入れをした商品を販売しました。

15日には第68回関西茶品評会の表彰式が行われ、普通煎茶の部で農林水産大臣賞を受賞した太田恒雄さん、産地賞を受賞した揖斐川町が表彰を受けました。

豚汁やおにぎりの無料配布なども行われ、さまざまなうまいもんに訪れた人は舌鼓を打っていました。



▲農林水産大臣賞を受賞した太田恒雄さん
前右列から3人目



▲笑顔で接客をする揖斐高校の生徒たち

無事故9000日を
目指す会

春日小学校は、平成27年7月18日(土)に交通事故無事故記録8000日を達成しました。11月19日(木)には、交通事故への意識を高め、無事故記録を更新していくために、無事故9000日をを目指す会が開催されました。

春日小学校では、平成5年11月15日の事故から22年間、児童が絡んだ交通事故が起きておらず、無事故8000日達成の感謝状を揖斐警察署春日警察官駐在所の溝口久晴巡査長から受け取りました。

全校児童25人はひとりずつ誓いの言葉を述べて、父親や母親の世代から受け継いできた記録を地域の皆さんへの感謝の気持ちとともに大切にしていこうことを約束しました。



▲誓いの言葉の発表

**もろこし村
サツマイモ収穫祭開催**

揖斐川町脛永の農家でつくる農業団体「もろこし村」のサツマイモ収穫祭が、脛永の農園で開催されました。

もろこし村では、毎年、オーナーを募って農業を体験する事業を行っており、今年は150組のオーナーが登録され、約2500平方メートルの畑でサツマイモを育ててきました。

収穫祭の当日は、家族連れ約450人が訪れ、スコップやくわでサツマイモを掘り起こし、家族で楽しみながら収穫を行いました。また、参加者には焼き芋やおもちなどが振る舞われ、実りの秋を満喫していました。



サツマイモを掘り起こす参加者たち

**セントジョージマラソン派遣団
体験報告が届きました**

先月号に引き続き、9月30日(水)10月7日(水)の8日間、セントジョージマラソン派遣団として、セントジョージマラソンに参加したランナーの皆さんから報告書を紹介します。

**いびがわマラソン2014
町内女子優秀選手 高橋 万里さん**

セントジョージには私が今まで見た事の無い赤レンガ色の山々と大地が広がっていました。

その大自然がまだ暗闇に包まれている中、マラソンはスタートします。下り基調でありながら、途中に上りもあるハードなコースでした。

最初は防寒具が必要な位の寒さから真夏日へと気温も変化し、しだいに脚も心も疲れてくるのですが、懸命なボランティアの方たちや沿道から精一杯励ましの声援をくださる方たちは、セントジョージに居ながらいびがわマラソンを思い出させ、私に力をくれました。

派遣団の皆さんとホストファミリーのブレイク家の人たちが待っていてくれるゴールに辿り着いた時は本当に嬉しかったです。自己ベストも更新し、さらに思い出深いものとなりました。

りました。

アメリカ本土に行く事やホームステイは私の夢の1つでしたが、マラソンを始めた事がこのような素晴らしい経験に結び付くとは思ってもみませんでした。私がセントジョージマラソンに参加できたのも、どんな時も応援し支えてくれる家族や友人、地元や会社の皆さん、ランナー仲間の皆さんなど、多くの方々のお陰だと感謝の気持ちでいっぱいです。

今回経験した事全てが私にとって一生忘れられない宝物となりました。この経験を活かし、今後もマラソンにも何事にもチャレンジしていきたいです。

**いびがわマラソン2014
町内男子優秀選手 佐藤 正昭さん**

夜明け前、セントジョージマラソンのスタートが切られました。他の選手に惑わされる事なく、ゆつくりとペースを刻みます。日の出とともに少しずつ明るくなりました。前日のコース下見で見た最高に綺麗な景色を見る余裕もなくレースに集中。中間地点からギアチェンジ。前の選手一人一人を確実に捉え、目標を達成できるかもしれないと心踊りました。

しかし20マイル過ぎから右足が、22マイル過ぎから左足もつり出しました。足がつかないギリギリのペー

スで、ゴールまで突き抜けました。結果は2時間56分22秒、総合77位、年代別10位でした。あと1分速ければ8位入賞だっただけに残念。目標の2時間50分切りも達成できませんでしたが、昔の自分を越える事はできました。

セントジョージマラソンは最高のロケーションで声援も素晴らしかったので、いつの日か再びこの地を訪れたいと思いました。現地の関係者の方やホストファミリーの方にも大変優しくしていただきました。

最後に、お世話になった役場の方、一緒に参加されたメンバーの方、出発前に壮行会を開いてくれた方、アドバイスをくれた方、自分に関わる全ての方に感謝しています。ありがとうございました。

